特許第 3283463 号

果菜用省力育苗資材

楽苗

取扱説明書

はじめに

誠和の「楽苗」をご購入いただき、誠にありがとうございます。
この取扱説明書をよくお読みになり、各製品の特徴を十分ご理解の上、適切な管理をして頂くようお願いいたします。
尚、この取扱説明書は、常に目の届くところに保管し、十分活用して下さい。

安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書および製品の表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、使用される方への危害や他の損害を未然に防止するための重要な内容を表示しています。各表示の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文を最後までお読みになり、正しくお使い下さい。

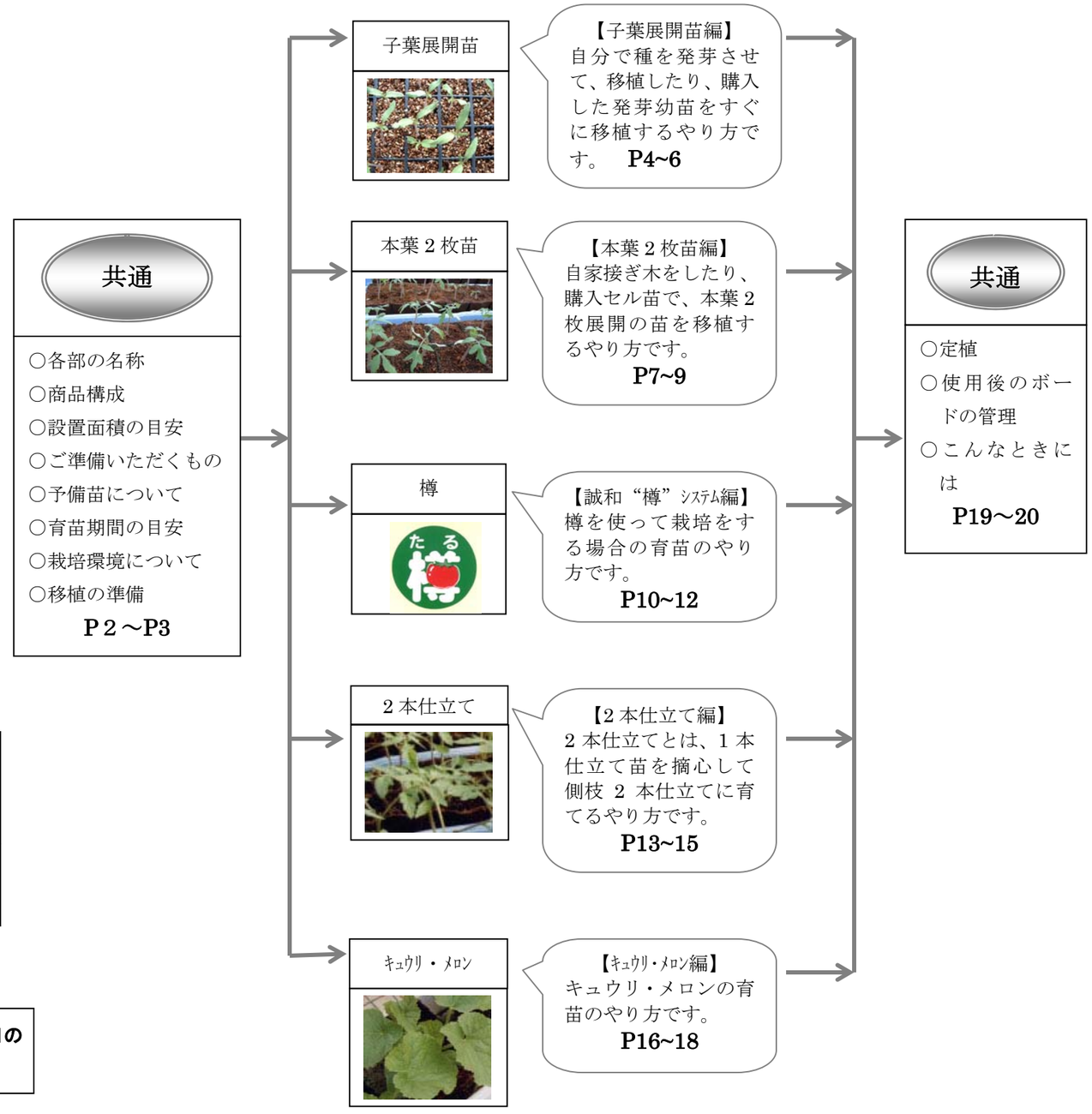
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり物的損害の発生が想定される内容が記載されています。 一部、農薬の使用方法に関わる事項も記されていますが、農薬の使用については、最寄の JA、農業改良普及センター等へご相談の上、安全にご使用下さい。
❗	記号は強制（必ず実行して欲しい）したり指示する内容があることを告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容が描かれています。

日常の点検と手入れ

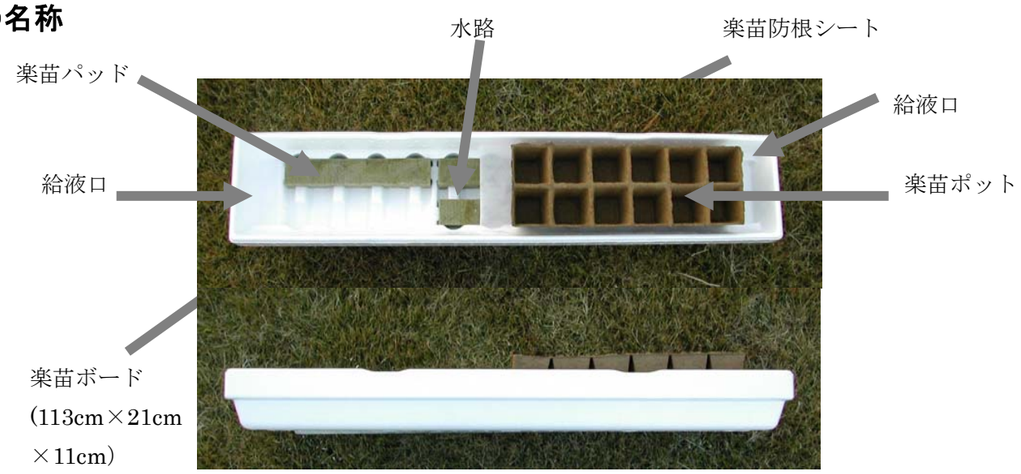
この商品は「らくに苗つくり」ができるように設計されていますが、万一の事故を避けるため、毎日の作物状況を確認して下さい。

共通

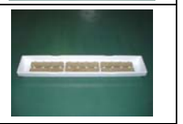
お客様の育苗のやり方は
どれになりますか？
お客様のやり方を選んでそのページをお読み下さい。



各部の名称



商品構成

楽苗土耕用	楽苗ボードセット土耕用 [230BRS]	1 セットで 5 枚 1ボードに楽苗ポットを 24 ポット使用	
	楽苗用培養土 [230BT45]	40 ℓ/袋 5 ボードで 1 袋(ポット 120 ケ分)	
	楽苗ポット [230FP552S]	フェルティルポット 8cm×8cm 12 連結 64 枚(768 ポット)	
	楽苗肥料セット [230H003]	1 箱で楽苗ボード約 40 枚分です (1)楽苗肥料 A 1kg(860 mℓ) 3 本 (2)楽苗肥料 B 1kg(720 mℓ)1 本	
	楽苗補給液 [230ST20]	20kg(17 ℓ) おおよそ 25 ボード分	
楽苗土耕用	楽苗ボード(パッド付) 土耕用 [230BR70]	1 枚入り パッド付	
	楽苗防根シート土耕用 [230S12]	5 枚入り(5 ボード分)	
	楽苗パッド(楽苗ボード土耕用 交換用) [230BP01C]	432 ケ入り 1 ボードに 6 ケ使用	

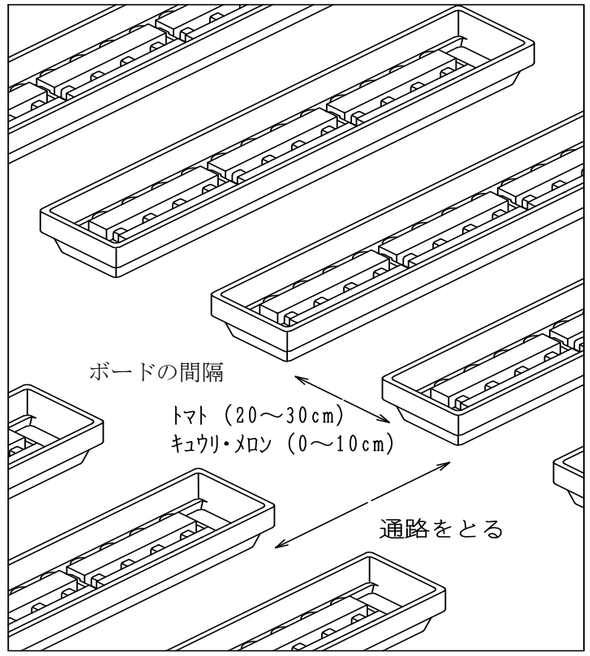
共通

商品の特長

1．水やりが、週に 1 回·····今まで毎日の作業であった水やりが大幅省力。
2．株間広げが、一切なし·····育苗の常識である株間広げを一掃しました。
3．苗運びが、24 株 1 度に ····コンテナへの面倒な移し替えの手間も無くしました。
4．定植が、ポットのまま·····地味なポット回収作業も必要ありません。
5．面積が、１／３·····省スペースでハウスの有効活用ができます。

設置面積の目安

1.2m×20m で楽苗ボード 42 枚(1000 株)
設置可能です。



ご準備いただくもの

1. 希釈用タンク 1 個
2. 秤(10kg 程度が量れるもの)

予備苗について

少なくとも 5%以上の予備苗を見込んで下さい。

育苗期間の目安

日数は移植から定植までです。

夏	秋・冬・春
15～25 日	20～40 日

共通

栽培環境について

①冬の管理

※苗が十分活着するまでは、ハウスの最低気温 15℃以上、ポット温度 16℃以上を確保して下さい。

・日照の少ない地域では、徒長を避けるため活着後やや温度を下げた方が良い場合が有ります。

・ハウスの温度がとれない場合は、楽苗補給液による抑制が効きすぎてしまいますので、トンネル被覆や温床線を使うなどして加温して下さい。

注意

温床線を使用する場合は、線が直接ボードに触れないように配線して下さい。ボードが溶けたり、火災の原因になるおそれがあります。

②夏の管理

※必要に応じて遮光などを行い、ハウスの気温、ポット温度共 35℃以下になるよう管理して下さい。

・特に 7 月から8月に移植を行う場合は、風通しの良いハウスを使用するなど、温度上昇に十分注意して下さい。

・移植後 2 日間は特にダメージを受けるので、ミストや遮光などの対策をしっかり行って下さい。

・天候の急変等によって、部分的にしおれ症状が出たら、遮光時間を延長する等の対策をして下さい。

風が直接ポットに当らないよう、風除けなどの対策をして下さい。

周縁部の生育が悪い場合にも、風除けをつけると効果があります。

共通

１．移植の準備

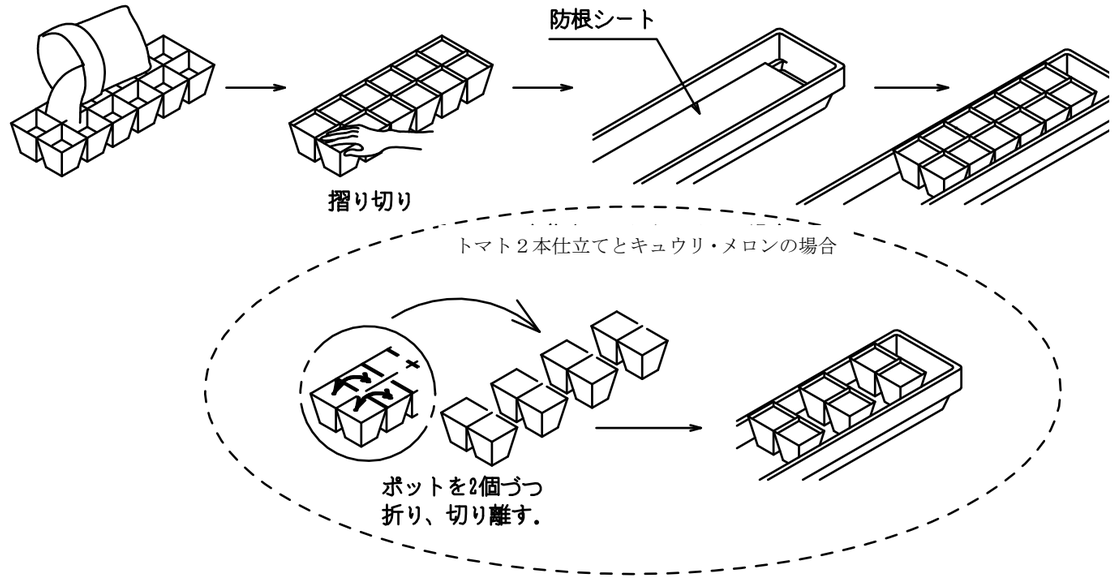
楽苗ボードの設置と培養土詰め

・ハウス内にマルチなどを敷き、楽苗ボード（以降 ボード）を並べます。

※ボードとボードの間は必ず 20～30cm の間隔をあけて下さい。
※地面の傾きがひどい場合は、板などをはさんで調節して下さい。

・楽苗ポット（以降 ポット）に培養土を詰めます。
使いかけの培養土の袋は、乾かないようにしっかりと封をして下さい。乾くと液肥を吸い上げにくくなります。

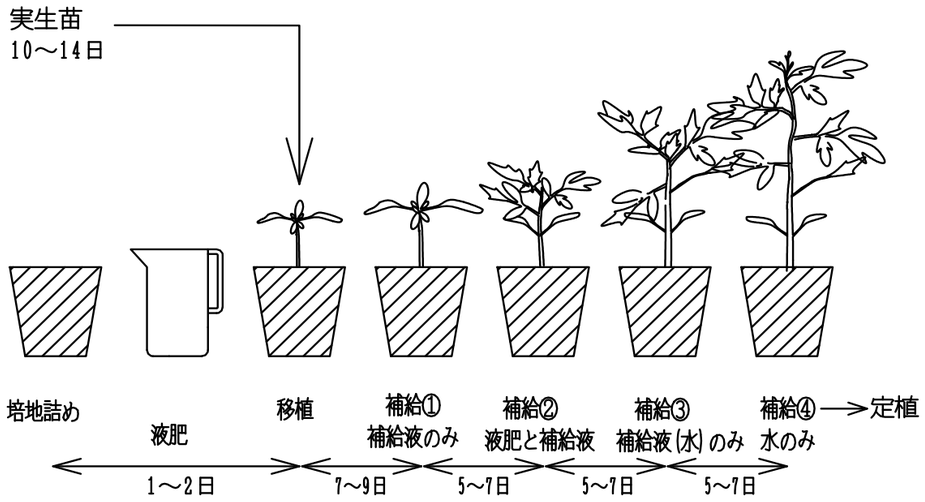
・ボードの上に、防根シートを敷いて 24 ポット（12 ポット×2 枚）ずつならべます。



注意

・パッドに触れるときは必ずゴム手袋をして下さい。ロックウールの繊維で、手を傷つけるおそれがあります。パッドから出る粉が皮膚につかないよう、また眼・鼻・口などに入らないよう注意して下さい。かゆみ、発疹等が発生するおそれがあります。違和感を感じたら、こすらずに患部を水洗いした後、医師に相談して下さい。

●トマト「子葉展開苗」の作業手順



２．液肥の準備

液肥作製

必要な水の量はボード１枚当たり９ℓで計算します。

【肥料Ａ・Ｂの使用量】

水量(ℓ)	肥料A(ｍℓ)	肥料B(ｍℓ)
1	4.3	1.2
100	430	120
200	860	240
300	1290	360
500	2150	600

※肥料ＡとＢは間違えないで下さい。

※右の表にお客様の当てはまる数値を計算して下さい。

必要な苗数はいくつですか？

必要苗数+予備苗 5%以上

(A)　　本

ボードの数はいくつですか？

苗数(A)÷24=ﾎﾞｰﾄﾞ数(B)

(B)　　枚

①液肥に必要な水の量

９ℓ×ﾎﾞｰﾄﾞ数(B)

(C)　　ℓ

②肥料Ａの量

必要水量(C)×4.3mℓ

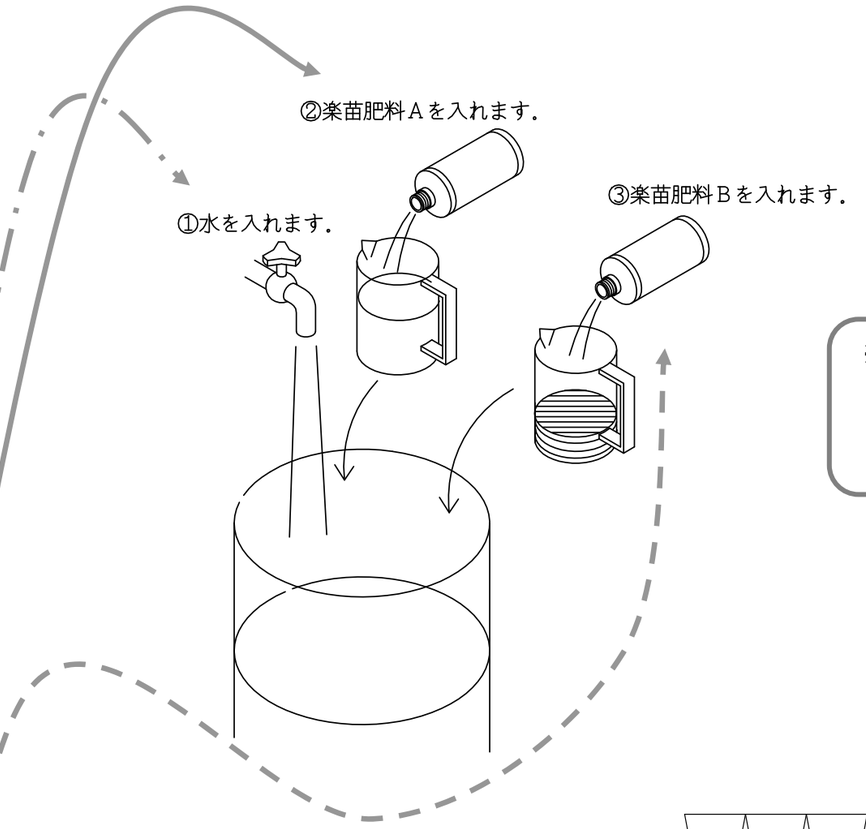
(D)　　mℓ

③肥料Ｂの量

必要水量(C)×1.2mℓ

(E)　　mℓ

≪液肥の作手順≫



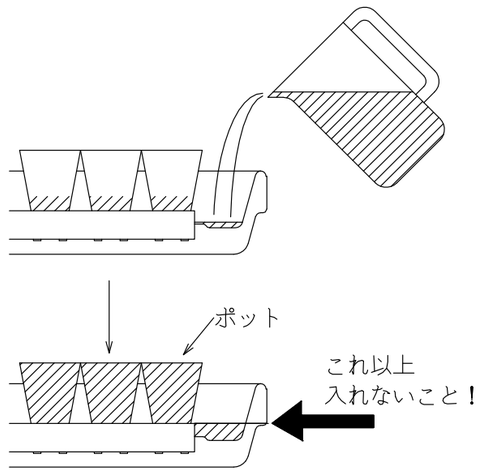
※肥料ＡとＢの原液同士を直接混ぜないで下さい。沈殿が発生して溶けなくなります。

液肥の施与

・計量カップまたは水中ポンプ等を使って、各ボードの端の給液口から液肥を注入します。
・水位がポット底面に達したら一度注入を止め、液がポットに吸われるのを待ちます。
・再びポット底面まで液肥を注入します。

※移植してからは、ボードに入れる量は、いかなる場合もポット底面までにして下さい。

※培養土が乾いて液肥が浸み込まない場合は、液肥をポットの上からジョウロなどでかん水して下さい。

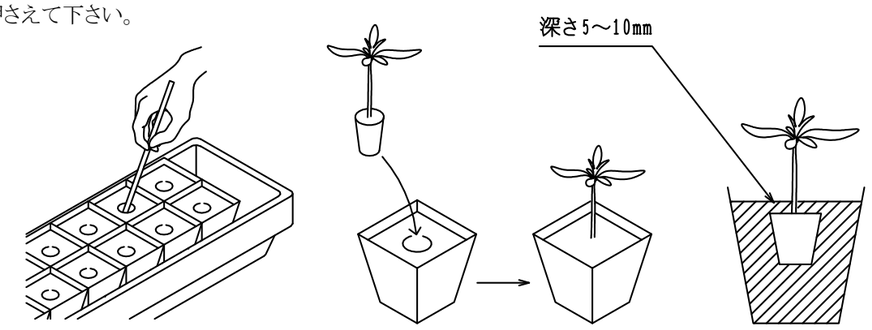


注意

楽苗専用肥料Ａおよびｂは、必ずラベルに記載された注意事項を守って使用して下さい。誤った取り扱いをすると、人体に障害を負ったり、作物に損害が発生するおそれがあります。

３．移植

・播種後 10～14 日の苗を使用して下さい。自分で播種する場合は肥料切れの無いようにご注意下さい。
培養土が表面まで十分に濡れているか確認します。
乾いている場合は再度給液します。
培養土に穴をあけ、苗を移植して株元の土をしっかり押さえて下さい。



※必ず根鉢の土が隠れるように深く植えて下さい。根鉢の土が培地表面に出ていると塩分などが溜り、生育不良の原因になるおそれがあります。

※ボードの水路部分の液は 2～3 日でなくなりますが、まだパッド内には十分液が残っているので、パッドが乾くまで液は足しません。

※農薬散布をする場合は活着後（移植 1 週間後以降）に行って下さい。本育苗資材の特性上、育苗期間中の農薬、液肥等のポットへのかん注はしないで下さい。

４．補給

楽苗補給液の量が多いほど、植物が水を吸い上げにくくなり、徒長が抑えられて小さく育ちます。

①補給１回目

※補給１回目は楽苗補給液だけを使用します。

補給の時期は秋～冬～春は 9 日後、夏は 7 日後に補給して下さい。ただしボードが 5kg 以下になった場合は、この日数より早めに補給します。

ボード重量の測定

・いろいろな場所から 3 枚以上のボードを選び重さを量ります。
・重さの平均を計算し、補給に使う水の量を決めます。

補給水量の目安

ーボード１枚当たりですー

ボード重量(A)	水量(B)
5～6kg	5ℓ
6～7kg	4ℓ
7～8kg	3ℓ

※ボードが 8kg 以上ある場合は、8kg 以下になるまで待ってから補給して下さい.

楽苗補給液は 1 ボード当たり **170mℓ**にします。

・計量カップまたは水中ポンプを使って、ボード給液口から作製した液を注入します。
・水位がポット底面に達したら一度注入を止め液がポットに吸われるのを待ちます。
・再びポット底面まで注入します。

※作製した量には余裕が有ります。ボードに入れる量はポット底面までにして下さい。

⚠ 注意

補給液はポットの上からかけないで下さい。また、植物にかからないように注意して下さい。

※補給液が余ってしまった場合は、1～2 日給液口の水位を確認してから残りの液をつぎ足して下さい。

１回目の補給液の量は？

ボードの平均の重さは

(A)　　kg

左の表から１枚当たりの水量は

（B）　　ℓ

タンクの水量は

１枚当たりの水量(B)×ボードの数量

(C)　　ℓ

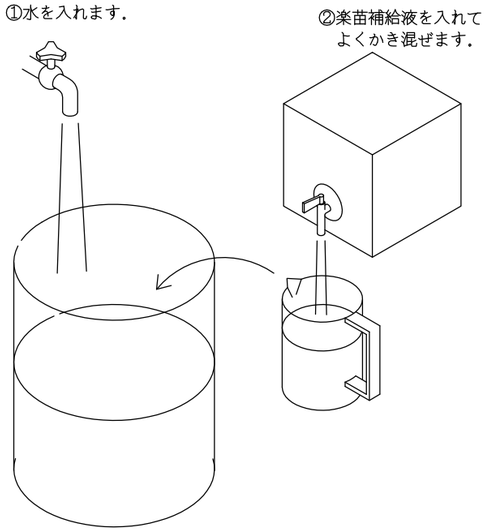
ボード１枚当りの補給液の原液量は

１７０mℓ×ボードの数量

＊単位に気をつけて下さい。

(D)　　mℓ

≪補給液の手順≫



※楽苗補給液原液は比重が重く水に沈みやすいので、良くかき混ぜて溶かして下さい。

②補給 2 回目

・2 回目の補給は 1 回目の 7 日後に行って下さい。ただし、夏期は水分が早く減るため 5～6 日後にして下さい。
・補給 1 回目と同様に、ボードの重さを量って水量を決めて下さい。

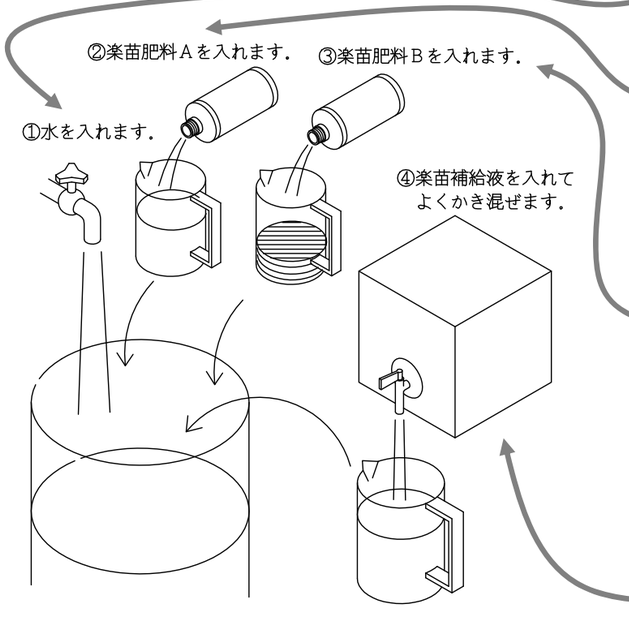
※補給 2 回目は肥料と補給液を混ぜて施与します。

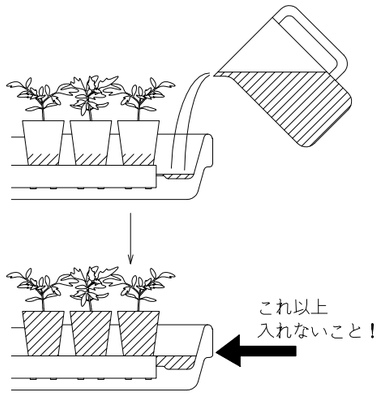
肥料の量　—ボード 1 枚当たりです—

肥料A	肥料B
20 mℓ	5.6 mℓ

補給液（原液）量　—ボード 1 枚当たりです—

		植物の状態		
		徒長	普通	矮化・萎れ
栽培環境	秋～冬～春	280mℓ	250mℓ	200mℓ
	夏	250mℓ	200mℓ	170mℓ
	夏（極めて高温のとき）	200mℓ	170mℓ	0mℓ
	冬（十分な暖房が出来ないとき）	200mℓ	170mℓ	0mℓ





2 回目の補給液の量は？

ボードの重さは

(A)　　kg

1 枚当たりの水量は（P5 の表を参照）

(B)　　ℓ

タンクの水の量

1 枚当たりの水量(B)×ボードの数量

(C)　　ℓ

肥料Ａの量

20mℓ×ボードの数量

(D)　　mℓ

肥料Ｂの量

5.6mℓ×ボードの数量

(E)　　mℓ

ボード一枚当りの補給液の原液量は（左表より）

mℓ×ボードの数量

※単位に気をつけて下さい

(F)　　mℓ

②補給 3 回目

※3 回目は、補給液だけになります。

3 回目の補給は 2 回目の 7 日後に行って下さい。ただし、夏期は水分が早く減るため 5～6 日後にして下さい。
・補給 1 回目と同様に、ボードの重さを量って水量を決めて下さい。

補給液（原液）量　—ボード 1 枚当たりです—

徒長	普通	矮化・萎れ
200～250 mℓ	180 mℓ	0 mℓ（水のみ）

3 回目の補給液の量は？

ボードの重さは

(A)　　kg

1 枚当たりの水量は（P5 の表を参照）

(B)　　ℓ

タンクの水の量

1 枚当たりの水量(B)×ボードの数量

(C)　　ℓ

ボード 1 枚当りの補給液の原液量は(左表より)

mℓ×ボードの数量

＊単位に気をつけて下さい。

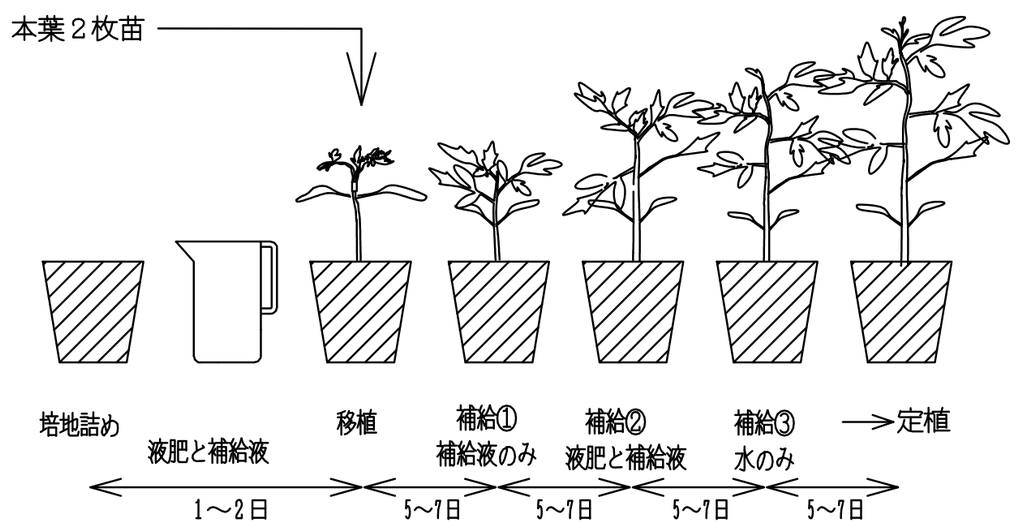
(D)　　mℓ

④補給 4 回目

・後は水のみの補給になります。

※あまり乾かすことは避け、水分が減ってきたら早めに水を足すようにして下さい。

●トマト「本葉２枚苗」の作業手順



２．液肥の準備

※必要水量はボード１枚当たり９ℓで計算します。

液肥作製

液肥作製の目安

水量（ℓ）	肥料Ａ（mℓ）	肥料Ｂ（mℓ）	補給液（mℓ）
1	4.3	1.2	18
100	430	120	1800
200	860	240	3600
300	1290	360	5400
500	2150	600	9000

※右の表にお客様の当てはまる数値を計算して下さい。

・9ℓは作製する量の目安です。ボードに入れる量はポット底面までにして下さい。

※夏期の育苗などで本葉５枚以下の若苗で定植したい場合は、補給液を入れる必要はありません。

必要な苗数はいくつですか？
必要苗数+予備苗 5%以上
(A)　　本

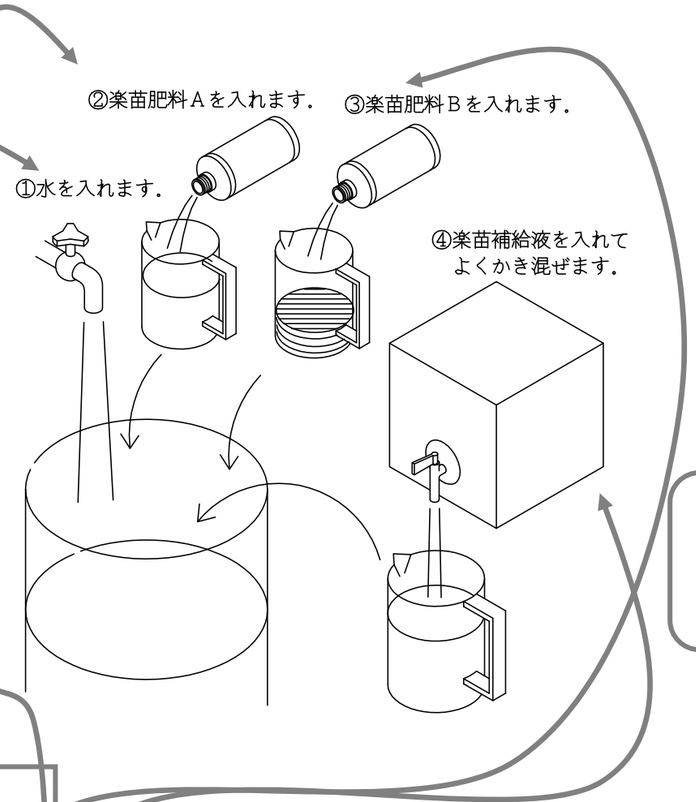
ボードの数はいくつですか？
苗数(A)÷24=ﾎﾞｰﾄﾞ数(B)
(B)　　枚

①液肥に必要な水の量？
９ℓ×ﾎﾞｰﾄﾞ数(B)
(C)　　ℓ

②肥料Ａの量
必要水量(C)×4.3mℓ
(D)　　mℓ

③肥料Ｂの量
必要水量(C)×1.2mℓ
(E)　　mℓ

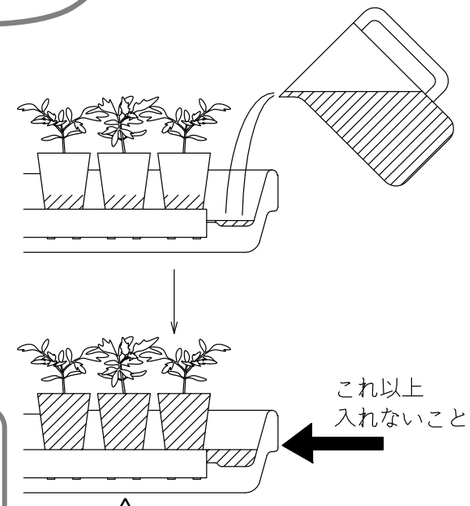
④補給液
必要水量（C）×18mℓ
(F)　　mℓ



肥料AとBの原液同士を直接混ぜないで下さい。沈殿が発生して溶けなくなります。

液肥の施与

・計量カップまたは水中ポンプ等を使って、各ボードの端の給液口から液肥を注入します。
・水位がポット底面に達したら一度注入を止め、液がポットに吸われるのを待ちます。
・再びポット底面まで液肥を注入します。



※移植してからは、ボードに入れる量は、いかなる場合もポット底面までにして下さい。

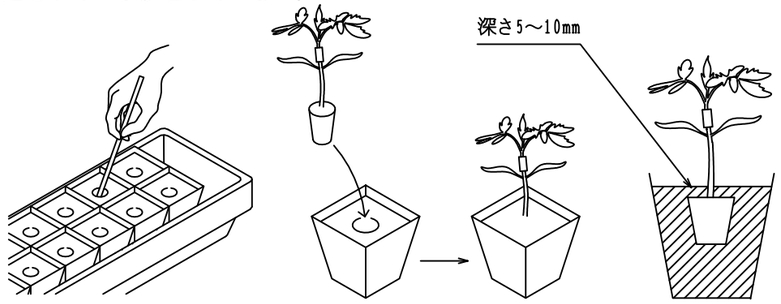
※培養土が乾いて液肥が浸みない場合は、ポットの上からジョウロなどでかん水して下さい。

注意

楽苗専用肥料Ａおよびｂは、必ずラベルに記載された注意事項を守って使用して下さい。誤った取り扱いをすると、人体に障害を負ったり、作物に損害が発生するおそれがあります。

３．移植

・本葉２枚程度の苗を使用します。
・128 穴セルトレイ程度の購入苗が適当です。
・200 穴セルトレイも使用可能です。
・接ぎ木苗の場合は完全に活着した苗を使用します。活着が不完全な苗は、養生して完全活着を確認してから移植して下さい。



・培養土が表面まで十分濡れているか確認します。乾いている場合は再度給液します。
・培養土に移植用の穴をあけ、苗を移植して株元の土をしっかり押さえます。

※必ず根鉢の土が隠れるように深く植えて下さい。根鉢の土が培地表面に出ていると塩分などが溜り、生育不良の原因になるおそれがあります。

※農薬散布をする場合は活着後（移植１週間後以降）に行って下さい。本育苗資材の特性上、育苗期間中の農薬、液肥等のポットへのかん注はしないで下さい。

４．補給

・楽苗補給液の量が多いほど植物が水を吸い上げにくくなり、徒長が抑えられて植物が小さく育ちます。

①補給１回目

※補給の時期は季節によって変わります。

補給の時期は秋～冬～春は７日後、夏は６日後に補給して下さい。ただしボードが 5kg 以下になった場合は、この日数より早めに補給します。

※ボードの水路部分の液は通常 2~3 日でなくなりますが、パッド内にはまだ十分液が残っているので、パッドが乾くまで液は足しません。

※ ボード重量の測定

・いろいろな場所から３枚以上のボードを選び重さを量ります。
・重さの平均を計算し、補給に使う水の量を決めます。

補給水量の目安

ーボード１枚当たりですー

ボード重量(A)	水量(B)
5～6kg	5ℓ
6～7 kg	4ℓ
7～8 kg	3ℓ

※ボードが 8kg 以上ある場合は、8kg 以下になるまで待ってから補給して下さい。

・下の表を参考にして、楽苗補給液（原液）の量を決めます。

補給１回目の補給液（原液）量の目安

ーボード１枚当たりですー

		植物の状態		
		徒長	普通	矮化・萎れ
栽培環境	秋～冬～春	280mℓ	250mℓ	200mℓ
	夏	250mℓ	200mℓ	170mℓ
	夏（極めて高温のとき）	200mℓ	170mℓ	0mℓ
	冬（十分な暖房が出来ないとき）	200mℓ	170mℓ	0mℓ

ボードの重さは

(A) kg

１枚当たりの水量は（左の表を参照）

（B） ℓ

タンクの水の量

（１枚当たりの水量(B)×ボードの数量）

(C) ℓ

補給液の原液量は

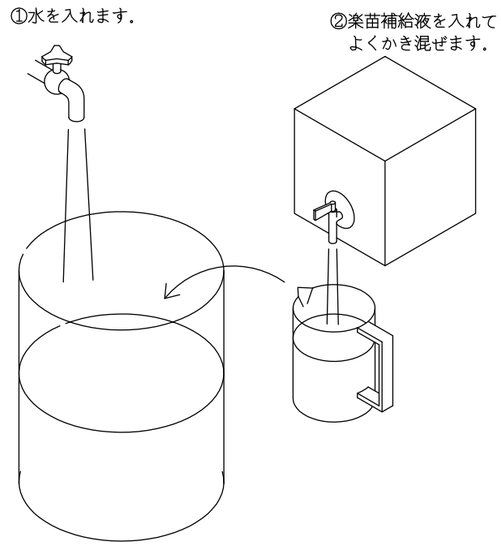
補給液 mℓ×ボードの数量

(D) mℓ

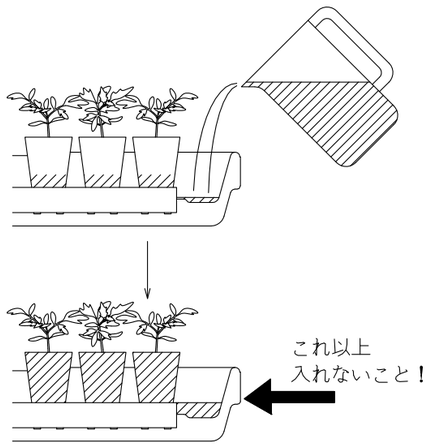
※補給の当日だけでなく育苗期間全体の環境を考慮して原液量を決めて下さい。
夏期の育苗などで本葉５枚以下の若苗で定植したい場合は、楽苗補給液を使わず、毎回水のみを補給して下さい。

≪補給の手順≫

※楽苗補給液（原液）は比重が重く水に沈みやすいので、良くかき混ぜて溶かして下さい。



・計量カップまたは水中ポンプ等を使って、各ボードの端から作製した液を注入します。
・水位がポット底面に達したら一度注入を止め液がポットに吸われるのを待ちます。
・再びポット底面まで注入します。



※作製した液には余裕が有ります。ボードに入れる量はポット底面までにして下さい。

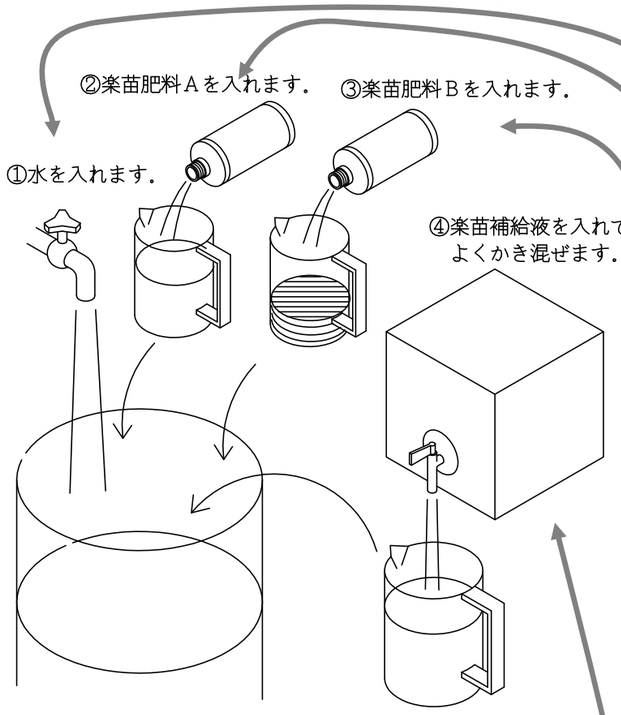
注意

・補給液はポットの上からかけないで下さい。
　また、植物にかからないように注意して下さい。

※補給液が余ってしまった場合は、1～2 日給液口の水位確認してから残りの液をつぎ足して下さい。

②補給 2 回目

・1 回目の補給から 7 日後に行って下さい。ただし夏期は水分が早く減るため 5～6 日後にして下さい。
・補給 2 回目は楽苗肥料と楽苗補給液を混ぜて施与します。
・補給 1 回目と同様に、ボードの重さを量って水量を決めて下さい。
・下の表を参考にして、肥料Ａと Ｂの量および楽苗補給液（原液）の量を決めます。



ボードの重さは(P8 を参照)

(A)　　kg

1 枚当たりの水量は（P８を参照）

（B）　　ℓ

①タンクの水の量

1 枚当たりの水量(B)×ボードの数量

(C)　　ℓ

②肥料 A の量

20 mℓ×ボードの数量

(D)　　mℓ

③肥料 B の量

5.6 mℓ×ボードの数量

（E）　　mℓ

補給液の原液量は

左表の目安（　mℓ)×ボードの数量

（F）　　mℓ

※単位に気をつけて下さい。

補給液作製の目安－ボード 1 枚当たりです－

		肥料Ａ (mℓ)	肥料Ｂ (mℓ)	補給液(mℓ)
植物の状態	徒長	20	5.6	200～250
	普通	20	5.6	170
	矮化・萎れ	20	5.6	0

※肥料の量は一定です。

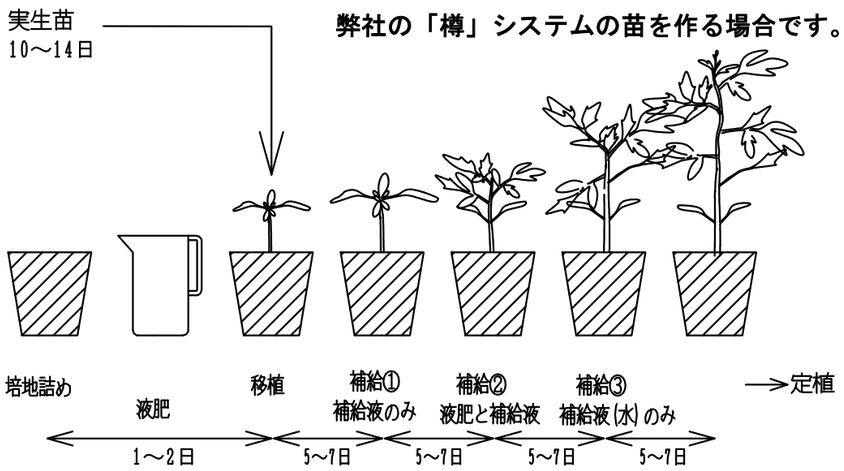
③補給 3 回目

・ 後は水のみの補給になります。

※あまり乾かすことは避け、水分が減ってきたら早めに足すようにして下さい。

●トマト「樽」の作業手順

弊社の「樽」システムの苗を作る場合です。



２．液肥の準備

液肥の作成

必要水量はボード１枚当たり９ℓで計算します。

※右の表にお客様の当てはまる数値を計算して下さい。

【肥料A･Bの使用量】

水量 (ℓ)	肥料A (mℓ)	肥料B (mℓ)
1	4.3	1.2
100	430	120
200	860	240
300	1290	360
500	2150	600

※肥料ＡとＢは間違えないで下さい。

必要な苗数はいくつですか？

必要苗数+予備苗 5%以上

(A)　　本

ボードの数はいくつですか？

苗数(A)÷24=ﾎﾞｰﾄﾞ数(B)

(B)　　枚

①液肥に必要な水の量

９ℓ×ﾎﾞｰﾄﾞ数(B)

(C)　　ℓ

②肥料Ａの量

必要水量(C)×4.3mℓ

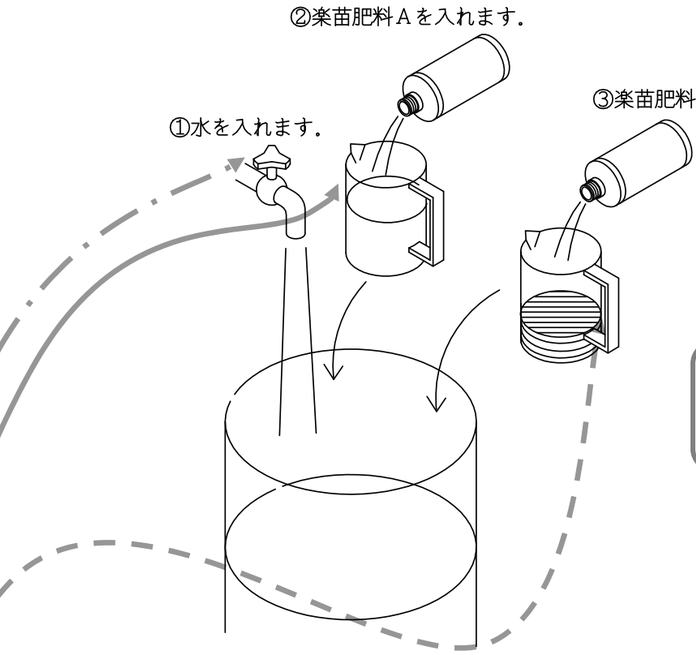
(D)　　mℓ

③肥料Ｂの量

必要水量(C)×1.2mℓ

(E)　　mℓ

≪液肥の作業手順≫



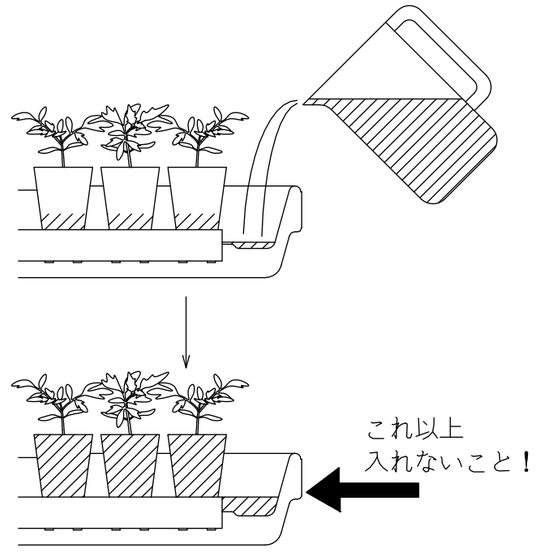
肥料ＡとＢの原液同士を直接混ぜないで下さい。沈殿が発生して溶けなくなります。

液肥の施与

・計量カップまたは水中ポンプ等を使って、各ボードの端の給液口から液肥を注入します。
・水位がポット底面に達したら一度注入を止め、液がポットに吸われるのを待ちます。
・再びポット底面まで液肥を注入します。

※移植してからは、ボードに入れる量は、いかなる場合もポット底面までにして下さい。

※培養土が乾いて液肥が浸みない場合は、液肥をポットの上からジョウロなどでかん水して下さい。

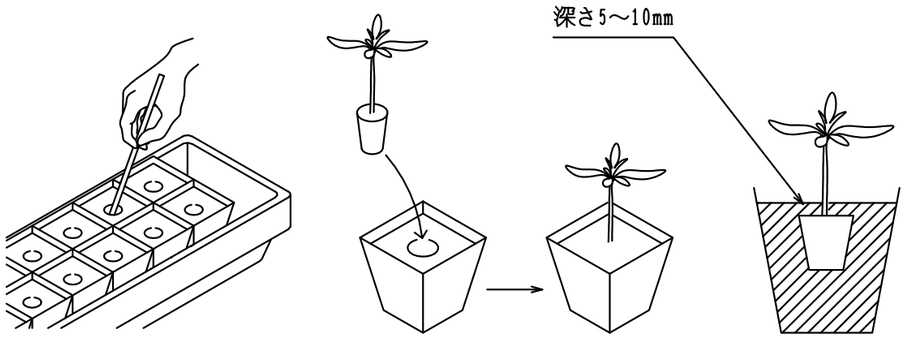


注意

楽苗専用肥料ＡおよびＢは、必ずラベルに記載された注意事項を守って使用して下さい。誤った取り扱いをすると、人体に障害を負ったり、作物に損害が発生するおそれがあります。

３．移植

・播種後 10～14 日の苗を使用して下さい。自分で播く場合は肥料切れの無いようにご注意下さい。
・培養土が表面まで十分濡れているか確認します。乾いている場合は再度給液します。
・培養土に移植用の穴をあけ、苗を移植して株元の土をしっかり押さえます。



※必ず根鉢の土が隠れるように深く植えて下さい。根鉢の土が培地表面に出ていると塩分などが溜り、生育不良の原因になるおそれがあります。

※ボードの水路部分に溜った液は通常 2～3 日でなくなります。このとき、パッド内にはまだ十分液が残っているので、パッドが乾くまで液を足す必要はありません。

※農薬散布をする場合は活着後（移植 1 週間後以降）に行って下さい。本育苗資材の特性上、育苗期間中の農薬、液肥等のポットへのかん注はしないで下さい。

４．補給

①補給 1 回目

・

※補給 1 回目だけ楽苗補給液を使用します。

※夏期は若苗で定植するので、水のみの補給となります。

・　1 回目の補給は7日後に行って下さい。夏期は水分が早く減るため 5～6 日後にして下さい。

ボード重量の測定

・いろいろな場所から 3 枚以上のボードを選び重さを量ります。
・重さの平均を計算し、補給に使う水の量を決めます。

補給水量の目安

ーボード 1 枚当たりですー

ボード重量(A)	水量(B)
5～6kg	5ℓ
6～7kg	4ℓ
7～8kg	3ℓ

※ボードが 8kg 以上ある場合は、8kg 以下になるまで待ってから補給して下さい

※楽苗補給液は 1 ボード当たり 170mℓ にします。夏期は入れない

※楽苗補給液原液は比重が重く水に沈みやすいので、良くかき混ぜて溶かして下さい。

・計量カップまたは水中ポンプを使って、ボード給液口から作製した液を注入します。

・水位がポット底面に達したら一度注入を止め液がポットに吸われるのを待ちます。

・再びポット底面まで注入します。

※ボードに入れる量は、いかなる場合もポット底面までにして下さい。

１回目の補給液の量は？

ボードの重さは

(A)　　kg

１枚当たりの水量は（左の表を参照）

（B）　　ℓ

タンクの水の量

（1 枚当たりの水量(B)×ボードの数量）

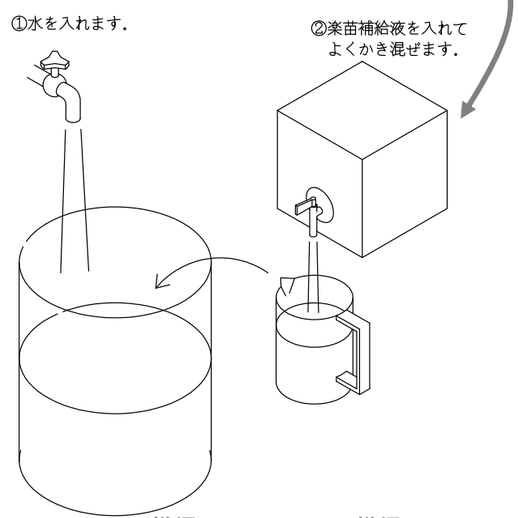
(C)　　ℓ

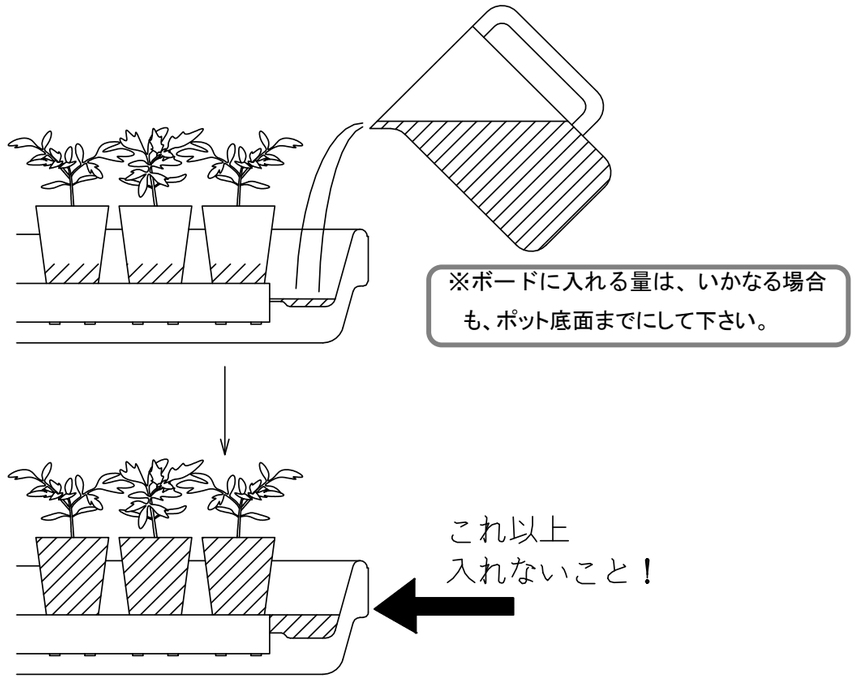
補給液の原液量は

170mℓ×ボードの数量

(D)　　mℓ

※単位に気をつけて下さい。





※ボードに入れる量は、いかなる場合も、ポット底面までにして下さい。

注意

楽苗補給液はポットの上からかけないで下さい。また、植物にかからないように注意して下さい。

③補給 3 回目

※3 回目も、水のみの補給になります。

3 回目の補給は 2 回目の 7 日後に行って下さい。
ただし、夏期は水分が早く減るため 5～6 日後にして下さい。

※あまり乾かすことは避け、水分が減ってきたら早めに水を足すようにして下さい。

※楽苗で育苗した苗を「樽」に定植する場合は、 夏期は本葉 5 枚以下、その他の時期は本葉 6～7 枚時に定植して下さい。定植後は樽の栽培のてびきに従って下さい。

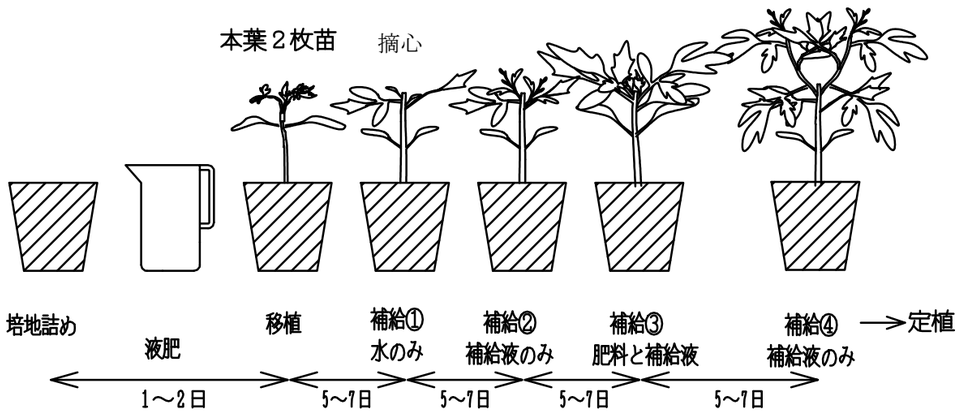
※補給液が余ってしまった場合は、1～2 日給液口の水位を確認してから残りの液をつぎ足して下さい。

②補給 2 回目

※2 回目は、水のみの補給になります。

2 回目の補給は 1 回目の 7 日後に行って下さい。
ただし、夏期は水分が早く減るため 5～6 日後にして下さい。

●トマト「２本仕立て」の作業手順



②液肥の準備

液肥の作製

必要水量はボード１枚当たり 7ℓで計算します。

※右の表にお客様の当てはまる数値を計算して下さい。

【肥料A・Bの使用量】

水量（ℓ）	肥料A（mℓ）	肥料B（mℓ）
1	4.3	1.2
100	430	120
200	860	240
300	1290	360
500	2150	600

※肥料ＡとＢは間違えないで下さい。

必要な苗数はいくつですか？

必要苗数+予備苗 5%以上

(A)　　本

ボードの数はいくつですか？

苗数(A)÷12=ﾎﾞｰﾄﾞ数(B)

(B)　　枚

①液肥に必要な水の量

7ℓ×ﾎﾞｰﾄﾞ数(B)

(C)　　ℓ

②肥料Ａの量

必要水量(C)×4.3mℓ

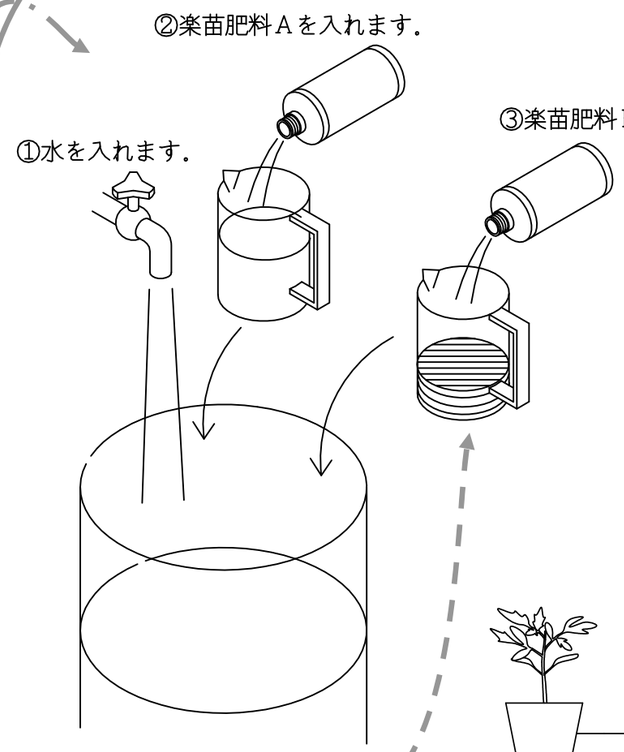
(D)　　mℓ

③肥料Ｂの量

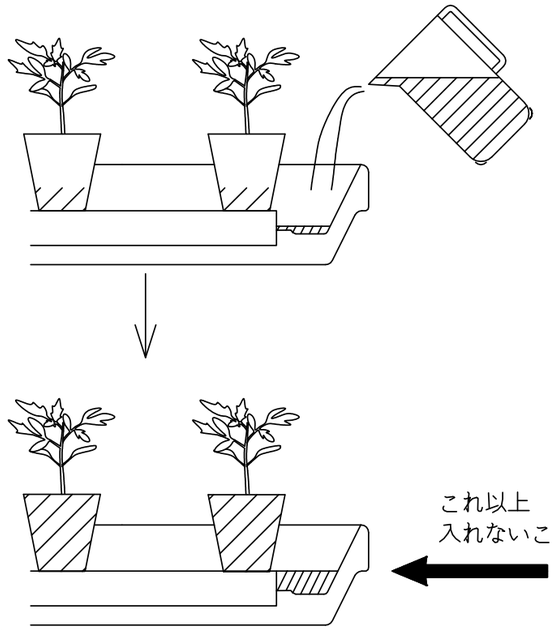
必要水量(C)×1.2mℓ

(E)　　mℓ

≪液肥の作業手順≫



肥料ＡとＢの原液同士を直接混ぜないで下さい。沈殿が発生して溶けなくなります。



液肥の施与

・計量カップまたは水中ポンプ等を使って、各ボードの端の給液口から液肥を注入します。
・水位がポット底面に達したら一度注入を止め、液がポットに吸われるのを待ちます。
・再びポット底面まで液肥を注入します。

※移植してからは、ボードに入れる量は、いかなる場合もポット底面までにして下さい。

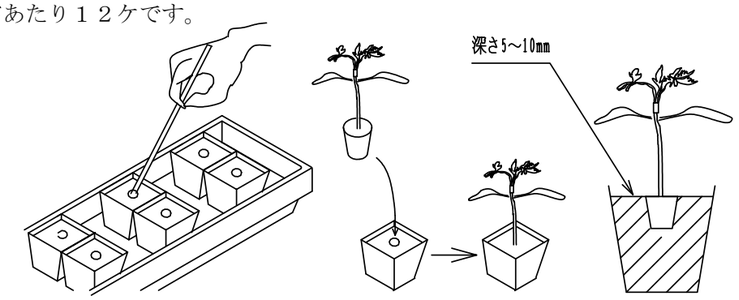
※培養土が乾いて液肥が浸み込まない場合は、液肥をポットの上からジョウロなどでかん水して下さい。

注意

楽苗専用肥料Ａおよびｂは、必ずラベルに記載された注意事項を守って使用して下さい。誤った取り扱いをすると、人体に障害を負ったり、作物に損害が発生するおそれがあります。

③移植

・接ぎ木苗の場合は、完全に活着した苗を使用します。活着が不完全な苗は、養生して完全活着を確認してから移植して下さい。
・ポットは、１ボードあたり１２ケです。



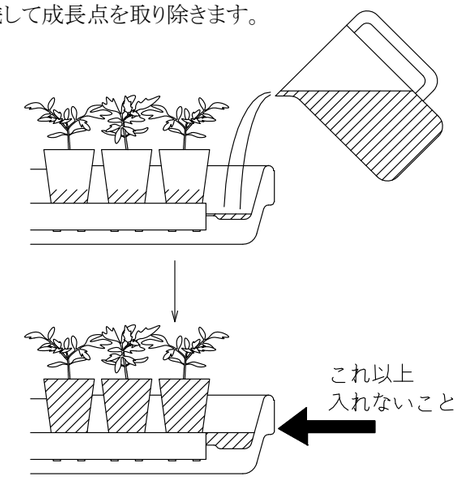
※必ず根鉢の土が隠れるように深く植えて下さい。根鉢の土が培地表面に出ていると塩分などが溜り、生育不良の原因になるおそれがあります。

※ボードの水路部分に溜った液は通常 2～3 日でなくなります。このとき、パッド内にはまだ十分液が残っているので、パッドが乾くまで液を足す必要はありません。

※農薬散布をする場合は活着後（移植 1 週間後以降）に行って下さい。本育苗資材の特性上、育苗期間中の農薬、液肥等のポットへのかん注はしないで下さい。

④摘心

・苗が活着したら摘心します。本葉を2枚（または3枚）残して成長点を取り除きます。



３．補給

①補給１回目

※摘心後すぐに行います。ボード重量にかかわらずポット底面まで注入します。

※補給１回目は水のみの補水になります。

・計量カップまたは水中ポンプ等を使って、各ボードの端から水を注入します。水位がポット底面に達したら一度注入を止め液がポットに吸われるのを待ちます。
・再びポット底面まで注入します。

②補給２回目

1回目の補水から7日後に行って下さい。ただし夏期は水分が早く減るため、5～6日後にして下さい。

ボード重量の測定

・いろいろな場所から 3 枚以上のボードを選び重さを量ります。
・重さの平均を計算し、補給に使う水の量を決めます。

補給水量の目安　ーボード１枚当たりですー

ボード重量(A)	水量(B)
3～4kg	5ℓ
4～5kg	4ℓ
5～6kg	3ℓ

※ボードが 8kg 以上ある場合は、6kg 以下になるまで待ってから補給して下さい

補給２回目の補給液（原液）の目安
ーボード１枚当たりですー

栽培環境		
	秋～冬～春	250mℓ
	夏	200mℓ
	夏（極めて高温のとき）	170mℓ
	冬（十分な暖房が出来ないとき）	170mℓ

※夏期の育苗などで本葉 5 枚以下の若苗で定植したい場合は、楽苗補給液を使わず、水のみを補給して下さい。

※楽苗補給液原液は比重が重く水に沈みやすいので、良くかき混ぜて溶かして下さい。

ボードの重さは

(A)　　kg

１枚当たりの水量は（左の表を参照）

（B）　　ℓ

タンクの水の量

（１枚当たりの水量(B)×ボードの数量）

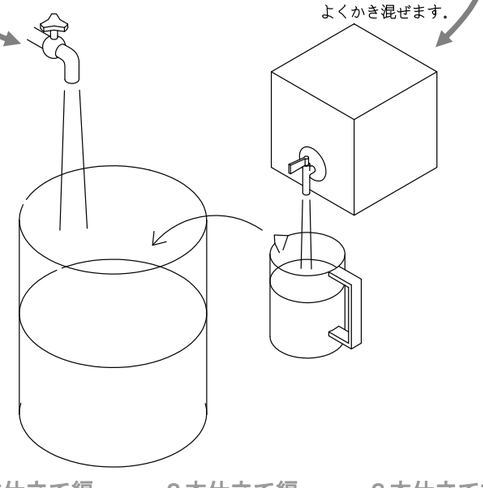
(C)　　ℓ

補給液の原液量は

左の補給液の目安　mℓ×ボードの数量

(D)　　mℓ

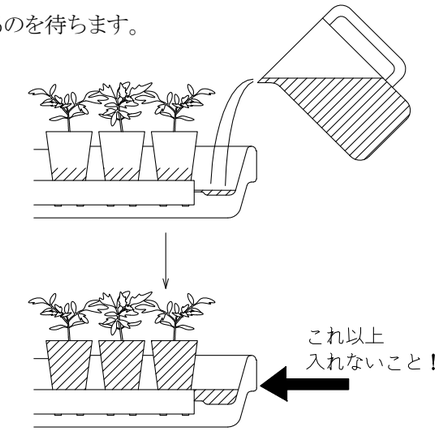
※単位に気をつけて下さい。



・計量カップまたは水中ポンプを使って、ボ―ド給液口から作製した液を注入します。

・水位がポット底面に達したら一度注入を止め液がポットに吸われるのを待ちます。
・再びポット底面まで注入します。

※ボードに入れる量はポット底面までにして下さい。



注意

補給液はポットの上からかけないで下さい。また、植物にかからないように注意して下さい。

※補給液が余ってしまった場合は、1～2 日給液口の水位を確認してから残りの液をつぎ足して下さい。

③補給 3 回目

・2 回目の補給から 7 日後に行って下さい。ただし夏期は水分が早く減るため 5～6 日後にして下さい。
・補給 2 回目と同様に、ボードの重さを量って水量を決めて下さい。
・補給 3 回目は楽苗肥料と楽苗補給液を混ぜて施与します。

ーボード 1 枚当たりですー

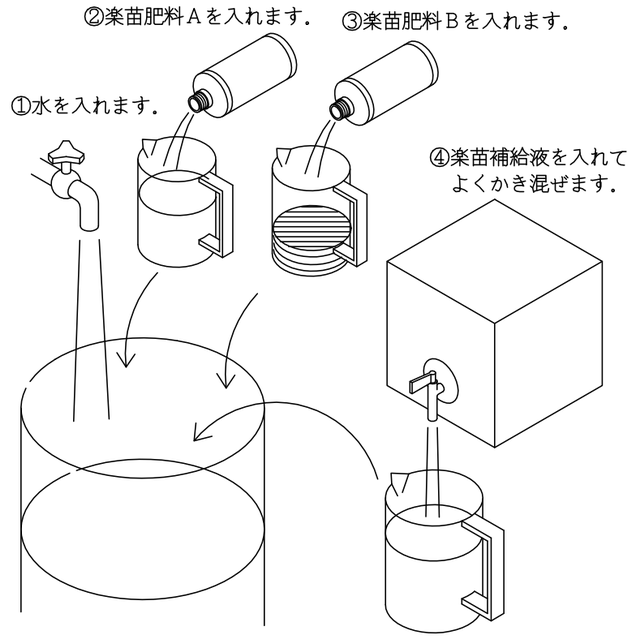
肥料A(mℓ)	肥料B(mℓ)
20	5.5

・ 下の表を参考にして楽苗補給液(原液)の量を決めます。

補給 3 回目の補給液（原液）量の目安

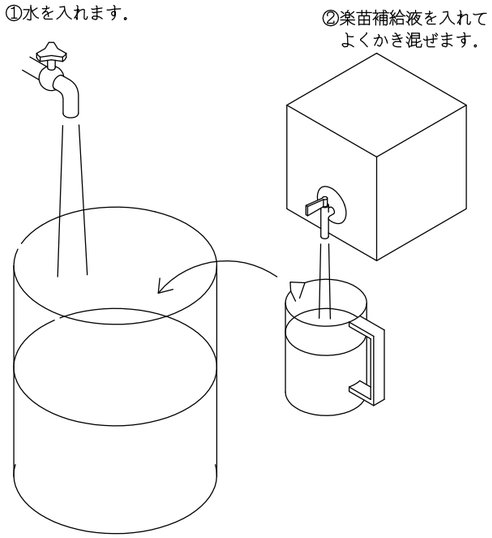
ーボード 1 枚当たりですー

		植物の状態		
		徒長	普通	矮化・萎れ
栽培環境	秋～冬～春	280mℓ	250mℓ	200mℓ
	夏	250mℓ	200mℓ	170mℓ
	夏（極めて高温のとき）	200mℓ	170mℓ	0mℓ
	冬（十分な暖房が出来ないとき）	200mℓ	170mℓ	0mℓ



④補給 4 回目

・3 回目の補給から 7 日後に行って下さい。ただし夏期は水分が早く減るため 5～6 日後にして下さい。
・補給 2 回目と同様に、ボードの重さを量って水量を決めて下さい。(P14)
・下の表を参考にして楽苗補給液(原液)の量を決めます。



補給 4 回目の補給液（原液）量の目安

ーボード 1 枚当たりですー

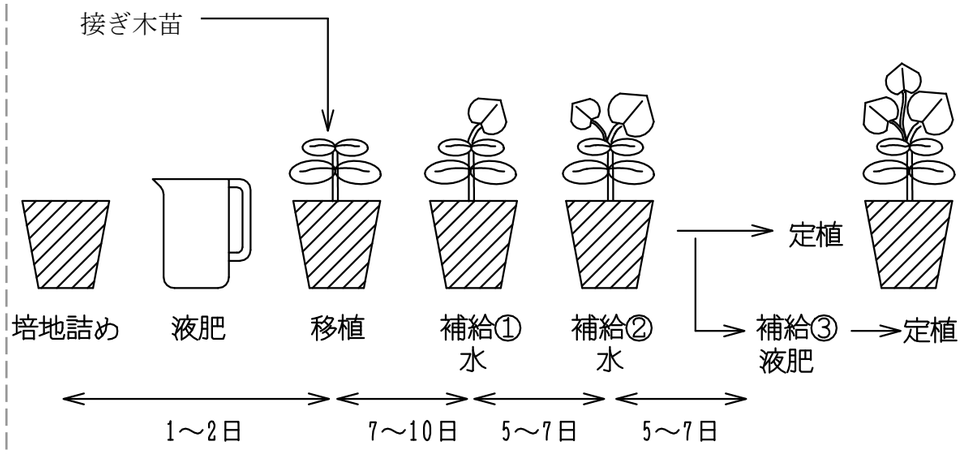
植物の状態	徒長	200～250mℓ
	普通	170mℓ
	矮化・萎れ	0mℓ

④補給 5 回目

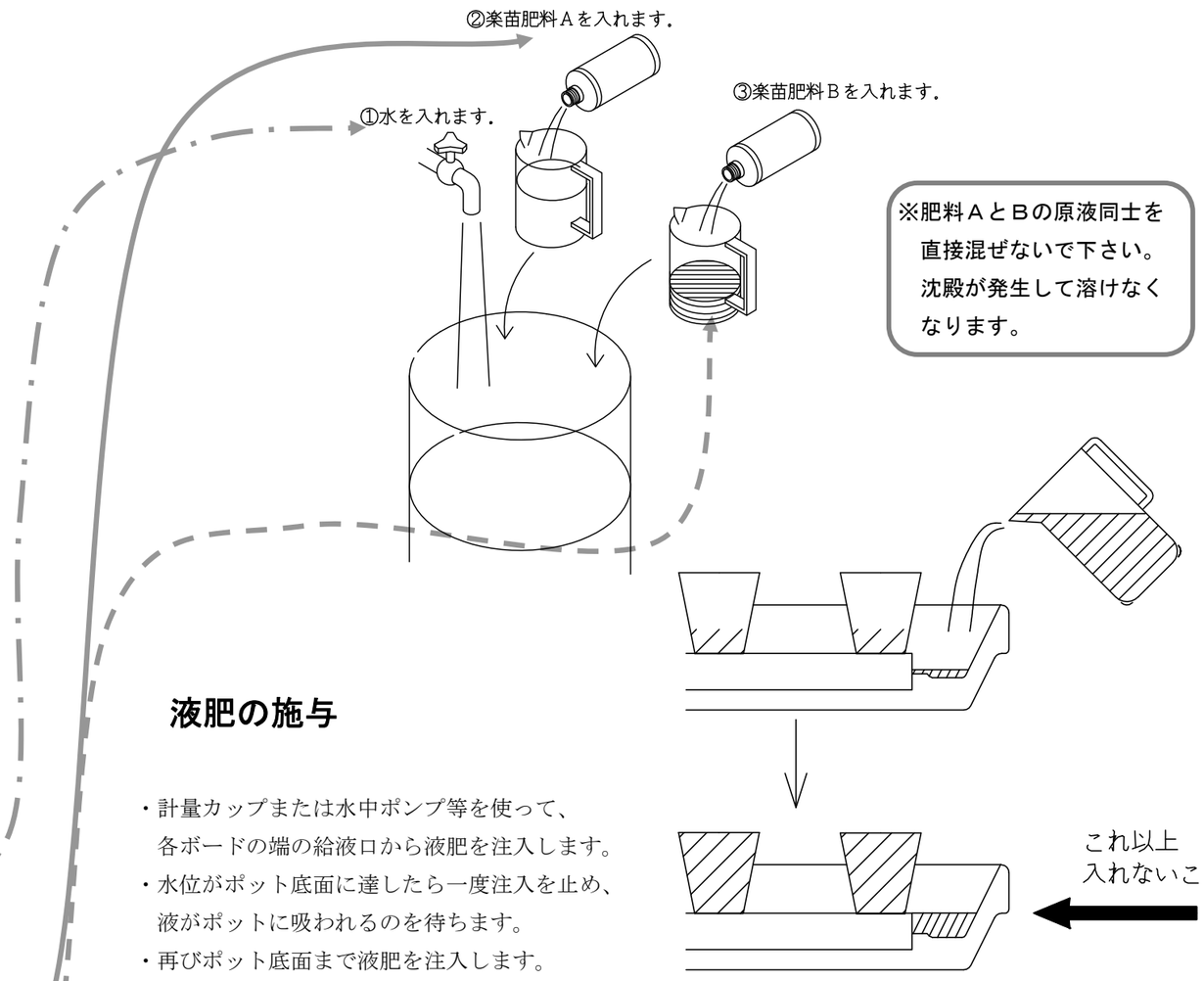
・ 後は水のみの補給になります。

※あまり乾かすことは避け、水分が減ってきたら早めに足すようにして下さい。

●「キュウリ・メロン」の作業手順



≪液肥の作業手順≫



液肥の施与

・計量カップまたは水中ポンプ等を使って、各ボードの端の給液口から液肥を注入します。
・水位がポット底面に達したら一度注入を止め、液がポットに吸われるのを待ちます。
・再びポット底面まで液肥を注入します。

※移植してからは、ボードに入れる量は、いかなる場合もポット底面までにして下さい。

※培養土が乾いて液肥が浸みない場合は、液肥をポットの上からジョウロなどでかん水して下さい。

注意

楽苗専用肥料Ａおよびｂは、必ずラベルに記載された注意事項を守って使用して下さい。誤った取り扱いをすると、人体に障害を負ったり、作物に損害が発生するおそれがあります。

２．液肥の準備

※右の表にお客様の当てはまる数値を計算して下さい。

液肥作製の目安

【肥料A･Bの使用量】

水量 (ℓ)	肥料Ａ (mℓ)	肥料Ｂ (mℓ)
1	3.6	1.0
100	360	100
200	720	200
300	1080	300
500	1800	500

※水量はボード１枚当たり 7ℓで計算して下さい。

※肥料ＡとＢは間違えないで下さい。

必要な苗数はいくつですか？

必要苗数+予備苗 5%以上

(A)　　本

ボードの数はいくつですか？

苗数(A)÷12=ﾎﾞｰﾄﾞ数(B)

(B)　　枚

①液肥に必要な水の量

7ℓ×ﾎﾞｰﾄﾞ数(B)

(C)　　ℓ

②肥料Ａの量

必要水量(C)×3.6mℓ

(D)　　mℓ

③肥料Ｂの量

必要水量(C)×1.0mℓ

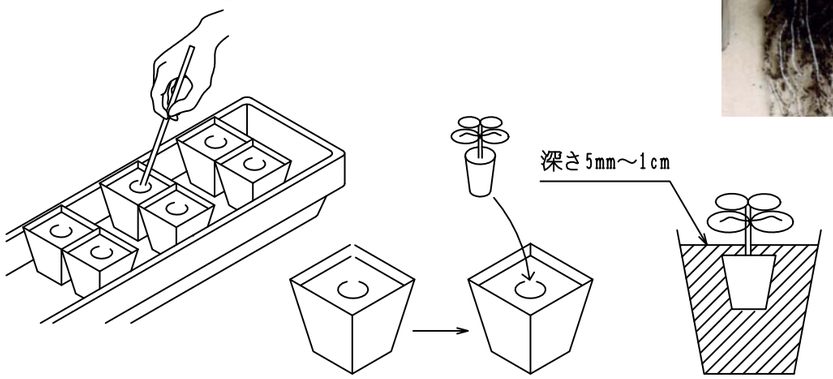
(E)　　mℓ

キュウリ・メロン編 キュウリ・メロン編 キュウリ・メロン編 キュウリ・メロン編 キュウリ・メロン編 キュウリ・メロン編

３．移植

・接ぎ木し、完全に活着した苗を使用します。活着が不完全な苗は、養生して完全活着を確認してから移植して下さい。

・ポットは１ボードあたり 12 ケです。キュウリやメロンの葉の受光を良好にするため葉の向きをそろえて並べて下さい。



・培養土が表面まで十分濡れているか確認します。乾いている場合は再度給液します。
・培養土に移植用の穴をあけ、苗を移植して株元の土をしっかり押さえます。

※必ず根鉢の土が隠れるように深く植えて下さい。根鉢の土が培地表面に出ていると塩分などが溜り、生育不良の原因になるおそれがあります。

※ボードの水路部分の液は 2～3 日でなくなりますが、まだパッド内には十分液が残っているので、パッドが乾くまで液は足しません。

※農薬散布をする場合は活着後（移植 1 週間後以降）に行って下さい。本育苗資材の特性上、育苗期間中の農薬、液肥等のポットへのかん注はしないで下さい。

４．補給

補給の時期

・補給は、植物の吸収や蒸発によって失われた水分の補給の目的で行います。

※キュウリ・メロンの場合は育苗期間も短く、徒長抑制の必要がありませんので、楽苗補給液は使いません。基本的に、水あるいは肥料の補給となります。

①補給１回目

※補給１回目は水だけの補給になります。

１回目の補給は移植してから７日～10 日後に行って下さい。
夏期は水分が早くなくなるため、5～6 日後にして下さい。

ボード重量の測定

・いろいろな場所から３枚以上のボードを選び重さを量ります。
・重さの平均を計算し、補給に使う水の量を決めます。

補給水量の目安　ーボード１枚当たりですー

ボード重量（A）	水量（B）
３～４kg	５ℓ
４～５kg	４ℓ
５～６kg	３ℓ

ボードの重さは

(A)　　kg

１枚当たりの水量は（左の表を参照）

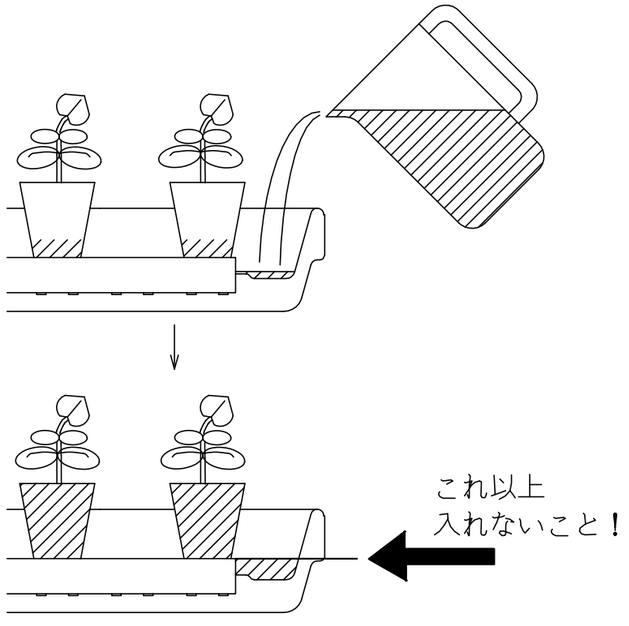
(B)　　ℓ

タンクの水の量

（1 枚当たりの水量(B)×ボードの数量）

(C)　　ℓ

※ボードが 6kg 以上ある場合は、6kg 以下になるまで待ってから補給して下さい。



※いかなる場合でも、ボードに入れる量はポット底面までにして下さい。

②補給２回目

※補給２回目も水だけの補給になります。

・1 回目の補給から 7 日後に行って下さい。ただし、夏期は水分が早く減るため 5～6 日後にして下さい。
1 回目と同様にボードの重量を量って水量を決めて下さい。（P１７）

※ボードが 6kg 以上ある場合は、6kg 以下になるまで待ってから補給して下さい。

③補給 3 回目

・2 回目の補給から 7 日後に行って下さい。ただし、夏期は水分が早く減るため 5～6 日後にして下さい。

※補給 3 回目は水だけではなく楽苗肥料を施与します。ただし定植の苗齢に達したら補給 3 回目は行いません。

補給水量の目安　ーボード１枚当たりですー

ボード重量（A）	水量（B）
3～4 kg	5ℓ
4～5 kg	4ℓ
5～6 kg	3ℓ

楽苗肥料は次の量を使用します。

【肥料A･Bの使用量】

水量（ℓ）	肥料A（mℓ）	肥料B（mℓ）
1	3.6	1.0
100	360	100
200	720	200
300	1080	300
500	1800	500

※肥料ＡとＢは間違えないで下さい。

ボードの重さは

(A)　　kg

1 枚当たりの水量は（左の表を参照）

（B）　　ℓ

タンクの水の量

（1 枚当たりの水量(B)×ボードの数量）

(C)　　ℓ

②肥料 A の量

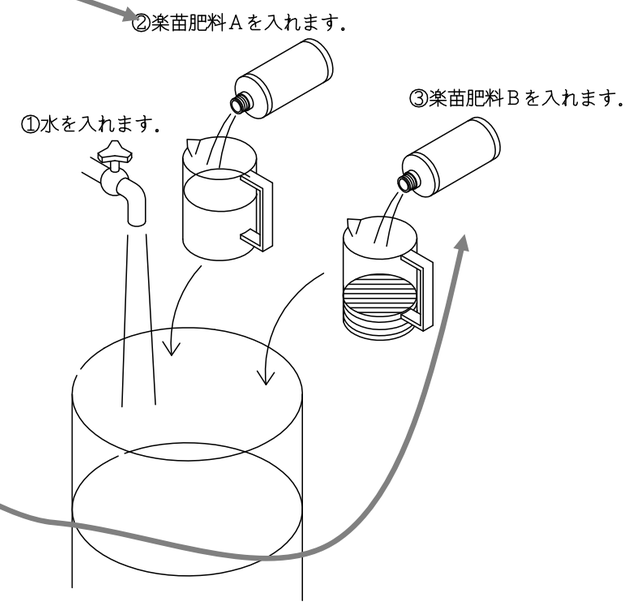
必要水量(C)×3.6mℓ

(D)　　mℓ

③肥料 B の量

必要水量(C)×1.0mℓ

（E）　　mℓ



４．定植

※定植時は通常の土耕の苗齢より 0.5～１枚早くして下さい。

・土へ定植の際は地際部まで十分に土で覆って活着の水やりを丁寧にあげて下さい。
・成長点の色と伸びが出てきたら、通常と同じ管理をして下さい。
・ボードごと本圃に運びます。
・ポットをボードから取り出して、ポットごと土に植えます。
・根が防根シートに張り付いている場合は、切れないように注意して取り外して下さい。根が長い場合は、根を巻き上げない様に注意して植えて下さい。

※本圃に植えたときに、ポットの縁が地面から出ていると、ポットが乾燥して活着が悪くなるおそれがあります。ポットの上まで埋めるか、地面に出ている部分を切り取って下さい。

定植後の管理

※楽苗用のポットおよび培養土は、通常の培地より乾きやすいので、活着するまでのかん水は必ずこまめにやって下さい。

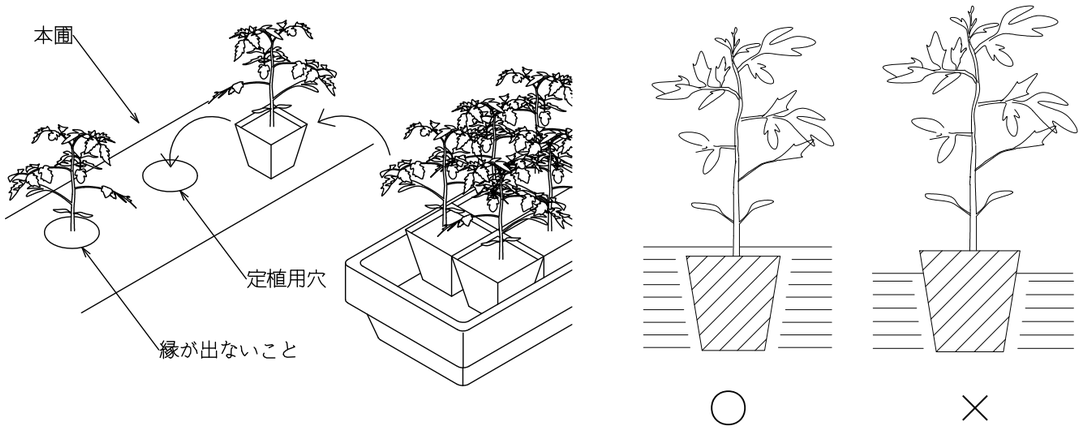
・定植後 3 日以上経っても生育が遅延している場合や肥料切れの症状がみられる場合は、薄めの液肥を施与して下さい。

４．定植

定植の時期は、花芽をみて判断します。
第１花房が見え始めてから米粒大になる
までの間に定植します。（「樽」を除く）
・7～8 月の高温期は本葉 5 枚位から
第 1 花房が見え始めるまでに定植
して下さい。

①植えつけ

・ボードごと本圃に運びます。
・ポットをボードから取り出して、ポットごと土に植えます。
・根が防根シートに張り付いている場合は、切れないように注意して取り外して下さい。
根が長い場合は、根を巻き上げない様に注意して植えて下さい。



※本圃に植えたときに、ポットの縁が地面から出ていると、ポットが乾燥して活着が悪くなるおそれがあります。ポットの上まで埋めるか、地面に出ている部分を切り取って下さい。

②定植後の管理

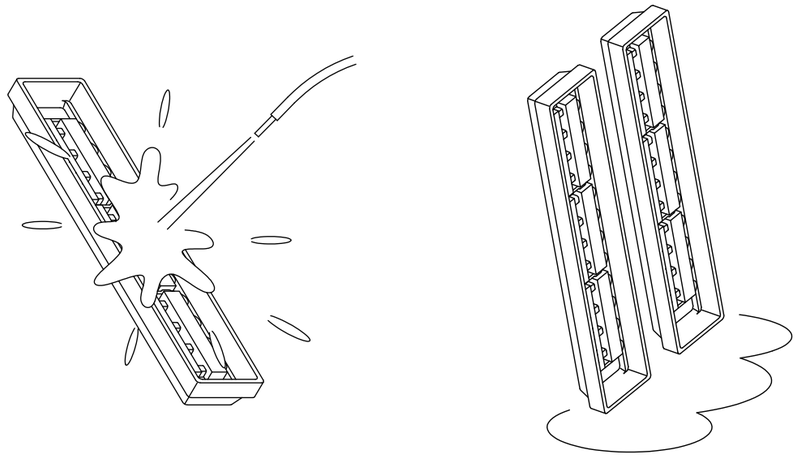
※楽苗用のポットおよび培養土は、通常の培地より乾きやすいので、活着するまでかん水は必ずこまめにやって下さい。

・定植後 7 日以上経っても生育が遅延している場合や肥料切れの症状がみられる場合は、薄めの液肥を施与して下さい。

共通

使用後のボードの管理

・ボードに一度水を溜め、傾けて流した後、流水で軽く洗い流します。
・壁などに立てかけてパッドの水分を切ります。
・水平に広げて乾かします。
（3～4 本ずつ井桁状に積み重ねてもよい）
・乾いたら重ねて日の当らないところに保管します。
・資材消毒を行った場合は、水で十分洗い流してから使用して下さい。
・楽苗防根シートは、作毎に交換して下さい。
・楽苗パッドは消耗品です。5 年（5 作）を目安に交換して下さい。



共通

こんなときには…

症状	原因	対策
・徒長した ・倒伏した	・補給液の濃度が薄い ・補給時期が遅い ・苗齢の進んだ苗を移植した ・日照不足、加温しすぎ ・ボードの間隔が狭い	・補給液の濃度を濃くする ・補給時期を早める ・暖房の設定温度を下げる ・ボードの間隔を広げる
・葉が細い ・葉色が黒い	・補給液の濃度が濃い ・補給時期が早い ・低温	・補給液の濃度を薄くする ・補給液の間に水を補給する ・温度を確保する
・葉の一部が黄化した	・補給液が葉にかかった	・補給液を葉にかけないように注意する
・下葉が黄化した	・肥料が切れてきた	・早めに定植する ・定植後に液肥を施与する
・葉全体が黄化した ・葉が硬く、光沢がある ・葉が巻く	・補給液がポットにかかった ・補給液の濃度が濃い ・ポットの乾かしすぎ ・低温による吸肥障害	・黄化した株だけ取り出し、薄い液肥で洗い流す ・温度を確保する ・補給液の使用をやめ、早めに定植する
・水分があるのに萎れた	・急に晴れた ・徒長した苗に急に濃い補給液を与えた	・数日遮光する ・回復しない場合には水を補給する
・株元が変色した ・株元が傷んだ	・セル苗の土が表面に出ている ・ハウス内が乾燥している ・暖房機の風が直接当っている	・株元に楽苗培養土を足す ・補給液の使用をやめ、早めに定植する ・病害予防として殺菌剤を散布する

共通

症状	原因	対策
・水が減らない	・液肥、補給液の入れすぎ ・ハウス内の湿度が高い	・液肥、補給液は正確に入れる ・できるだけ換気する
・ポット表面に白いものが浮き出た	・藻が塩類で枯れてカビが生えた ・カビによるポットの分解が始まった	・無害なので何もしない
・定植後の活着が遅い ・定植後に下葉が黄化してきた	・ポット内の水分が土壌に奪われて、乾いている	・株元にかん水する ・薄めの液肥を施与する

免責事項

弊社では、以下の各号に該当する責任は一切負うことができません。あらかじめご了承の上、取り扱いには十分ご注意下さい。

１．使用上の注意が守られなかったことにより生じた損失。
２．火災、風水害およびその他の天災により生じた損失。
３．育苗中の作物の生育不良による苗の損失。
４．上記、第３号に伴う作物の植替えによる収穫期間の減少による損失。
５．育苗に起因する生育不良が原因して起こる、収量の減少による損失。

S&H 株式会社 誠和。

ホームページ　http://www.seiwa-ltd.jp

楽苗に関するお問い合わせは、お買い求めの販売店か、弊社 営業所までご連絡下さい。

本　　社　〒110－0005　東京都台東区上野 6-6-1 舶来堂ビル 6F　TEL.03-5817-2361　FAX.03-5817-2362
仙台営業所　〒981－3213　宮城県仙台市泉区南中山 1-27-274　ハピネス南中山 201 号室　TEL.022-739-7193　FAX.022-379-9123
小金井営業所　〒392－0412　栃木県下野市柴 262-10　TEL.0285-44-1020　FAX.0285-44-1014
豊橋営業所　〒440－0083　愛知県豊橋市下地町若宮 55-2　TEL.0532-55-3911　FAX.0532-53-7545
大阪営業所　〒562－0003　大阪府箕面市西小路 3-11-28　TEL.072-721-1821　FAX.072-721-1910
高知営業所　〒783－0062　高知県南国市久礼田青木 431-3　TEL.088-862-0311　FAX.088-862-0312
久留米営業所　〒834－0121　福岡県八女郡広川町大字広川 182-4　TEL.0943-32-5963　FAX.0943-32-5967
小金井事業所　〒329－0412　栃木県下野市柴 262-10　TEL.0285-44-1751　FAX.0285-40-8976

2013.10　第 4.2 版　　210H00S

共通